

HEG オーストラリア フィールドワーク

令和5年3月14(火)～21日(火)

- 1 目的**

(1) 現地大学や現地高校と連携したアカデミックワークショップ、プレゼンテーション、文化交流等により、生徒の課題研究の進展及び国際意識の向上を図る。
(2) 将来、国際的に働いたり、グローバルビジネスの起業を考えたりする際に不可欠な人的ネットワーク構築術を身につける。
- 2 日程**

令和5年(2023) 3月14日(火)～21日(火)
- 3 方面**

オーストラリアニューサウスウェールズ州シドニー市
- 4 参加者**

2年生 31名(男子10名、女子21名) 引率3名 添乗員1名
- 5 経緯**

今回のフィールドワークにおいて The King's School をホスト校として訪問するにいたったきっかけは、2022年2月14日付の Peter Wilson 氏からの下記のメールである。

Dear Principal Yokoshima,
You may remember that I have visited Tsuchiura #1 several times over the past years.
Last year, it was communicated to me that your school may like to bring a group of students to my school for a week or two (in August I think).
I confess I have lost that email.
Please pass this email on to whoever organises your study abroad trips.
We at the King's School are very excited that some Tsuchiura students may at some stage come to visit us. And we are more than happy to host.
I would like to see if we can become sister, or partner, schools. The King's School is the oldest in Australia and in many ways is like Tsuchiura.
Please let me know if you are interested in forming some type of connection with us.
Thank you and I look forward to hearing from you.
Kindest regards
Peter

Peter 氏には SGH の海外 FW の時から現地大学(タスマニア大学、サザンクロス大学)への受け入れをさせていただいており、勤務先の退職時にかつての e-mail アドレスが不明となったため、名刺に書かれた土浦一高アドレスへの三代前の校長宛メールとなったものと考えられる。コロナ後の海外 FW を模索していた最中のメールであったため、すぐに Peter 氏に返信し、2日間の訪問でホームステイ先を探していただけるという条件で話を進めていくことになった。

その後、2022年12月に Peter 氏は The King's School を退職されてしまいましたが、Peter 氏の後任として Greg Alderson 氏が交流プログラムを引き継いでいただき、当初希望していたホームステイは寄宿舎への宿泊に変更せざるを得なくなりましたが、予定通り今回のフィールドワークを実施できることになった、
- 6 訪問校**

The King's School 89-127 Pennant Hills Road, North Parramatta, NSW
Tara Anglican School for Girls Masons, Drive, North Parramatta, NSW

3月14日(火)

19:00 羽田空港集合 出発式

22:00 羽田空港出発 カンタス航空 026 便



3月15日(水)

9:50 シドニー空港到着

12:00 市内中心部フードコートにてランチ

13:30 シドニー大学キャンパスツアー

17:30 The King's School へ

9:50 にシドニー国際空港に到着。その後専用車に乗車し、途中、シドニー市内中心部にある Myer 地下1階にあるフードコートでランチを取った後、シドニー大学を訪問した。シドニー大学では、シドニー大学への留学に関するプレゼンテーションを聞いた後、3人の日本人留学生の案内でキャンパスツアーを行った。その後、シドニー西部の街 Parramatta にある The King's School に向かい、17:30 に到着。まずは男子生徒のバディとミートし、夕食後、女子生徒がお世話になる The King's School 隣の Tara Anglican School for Girls に向かい、バディとミーとした。

【生徒の感想】

・オーストラリアは右ハンドル左車線なのに驚いた、日本車の世界シェアが凄いのを体を持って感じた。

・シドニーには色々な国の人が出て、特にアジア系の人が多くいたのが驚きだった。今日は内向的で全然うまく関われなかったから、明日からは自分から積極的に、まず名前を聞くところから頑張りたい。

・寄宿生は社交的な生徒ばかりで、自分から積極的に話すことが大切だとわかったので学んだことを次の会話に生かせるようにしていきたい。

12:00 市内でランチ(シドニーの中心部にある Myer の地下フードコートにて)



13:30 シドニー大学訪問

日本人留学生らのガイドでキャンパスツアー



17:30 The King's school 到着 バディと meet

19:00 デイナー at The King's School Dining Room



3月16日(木)

- ・Welcome Ceremony
- ・Tour of King's Campus
- ・PM Tour of Tara Campus 日本語クラスへの授業参加
- ・19:30 グループ A ミュージカル「Shrek」観劇

9:00 から盛大な Welcome Ceremony を開いていただき、教員・生徒一人ずつからお礼のスピーチ、ギフトの贈呈、学校紹介、フラワーアレンジメントの紹介などを行った。その後、広大な The King's School のキャンパス内の見学ツアーを行った。ダイニングルームでのランチ後、隣にある Tara Anglican School for Girls に移動し、日本語クラスの授業に参加させていただいた。17:30 に早めの夕食をとり、19:30 から The King's School の専用シアターでミュージカル「Shrek」を観劇させていただいた。

【生徒の感想】

- ・大学と King's、タラスクール訪問を通して、オーストラリアの自然の多さを実感した。冬でも緑がたくさんなのか気になる。また、今日は昨日よりもホームスチューデントと交流ができたのでよかった。
- ・公式セレモニーで一高のことを発表できて、伝えることの大切さを学んだ。また、キングス、タラで生徒同士の交流があり、充実していた！食事や移動のバスなど、多くのことをして下さって、感謝の気持ちでいっぱいだなと感じた。
- ・昨日と比べて自分から話しかけることが出来た。キングスもタラも敷地が広く、施設が魅力的で見ていて楽しかった。明日のプレゼンも頑張りたい。

・学校紹介プレゼンの大役を無事果たすことができ安心して居る。キングスでもタラでもリアクションをもらうことができそれが嬉しかった。生徒との交流もたくさんできて充実した1日となった。

・様々な生徒と交流ができてとても嬉しかった。キングスでは YAMAHA のバスドラを使って、タラには TAMA のドラムセットが置いてあり、日本のメーカーの打楽器がここでも演奏されていて嬉しくなった。

・今日は、昨日よりも Tara や King' s の生徒の子たちとの交流が多くて新鮮だった。また、すごいハプニングもあったけれど、周りの方の協力もあってみんなで楽しく乗り切れたので良かった。

・King' s、Tara の生徒たちがたくさん話しかけてくれて、交流できたけれどもっと自分から話しかけて仲良くなりたいと思った。シュレックもその後の諸々も全部楽しくて、人の温かさを感じるとともに書ききれないくらいたくさんの素敵な経験ができた。全てに感謝！

9:00 ウェルカムセレモニー



10:00 キャンパスツアー



13:00 Tara Anglican School for Girls 訪問 日本語授業に参加



19:30 ミュージカル「シュレック」観劇 at The King's School Theatre



3月17日(金)

- ・The Preparatory School での授業参加
- ・11:30～ 本校生徒によるプレゼンテーション
- ・18:00 The King's School のバディたちとレストランディナー
- ・19:30 グループ B ミュージカル「Shrek」観劇

8:30 に The King's School に集合し、併設してある小学校(The Preparatory School)の1年生の授業に参加させていただき、その後、2年生の案内で小学校のキャンパスツアーを行った。11:30 から探究学習の総仕上げである成果プレゼンテーションを約40名の聴衆の前で、各グループ12分の持ち時間(質疑応答含む)で行った。18:00 に The King's School のバディも一緒に歓迎夕食

会を Parramatta にあるレストランで開いていただいた。終了後、昨日に続いてグループ B の生徒がミュージカル「Shrek」を観劇した。

【生徒の感想】

・This morning, I met the prep students and was guided by them. Their English was a little difficult for me but it was really exciting. After that, we made speeches. I became too confused to speak well when I was in front of the King's guys. Later I went to dinner and could talk a lot with Peter. I had so much fun in our conversation. Today is also an exciting day for me!

・今日はまず TKS の prep school に行き、2 人の生徒と交流した。まだ 7 歳かそこそこだったのにとっても博識でびっくりした。子供が好きな僕にとっては至福の時間だった。プレゼンは思うようにいかなかったところもあったがなんとか無事に終わり、質問にも答えることができてよかった。夕食を食べ、その後宿舎の皆と遊んだが、彼らはとても明るく接してくれてとても楽しい時間を過ごせた。

明日からは聞き返す回数が少なくなるようにしたい。

・prep の生徒と交流した後、プレゼンをした。prep の生徒がどんどん先に走っていくので、ついていだけで精一杯だった。プレゼンは失敗することなく終えることができたのでよかった。また昨日、一昨日と比べて KING'S の生徒と自然に話すことができたので嬉しい。少し遅くなってしまったが、お土産を渡したらとても喜んでくれた。KING'S の生徒と交流できるのもあと 1 日しかないのもっと仲良くなれるように自分から話しかけていきたい。

・今日、prep の生徒と交流して思ったのだが、英語の話す能力だけでなく単純な会話能力がないのだなと気づいた。明日以降は積極的にとでもつまらない話でも良いから話しかけに行き、数で押しきろうと思う。ただ、プレゼンテーションを多くのキングズの生徒が誉めてくれたのは嬉しかった。あと、寮長がお怒りでとても怖かった。

・日本の友達も海外の友達もみんなだいじ。だから私も友達と上手に話したいです。というかコミュニケーションってなんだろうって色々思いました。とてもよかったです。

8:00 The King's School 訪問 AM8:30~11:00 The Preparatory School 訪問



11:30~14:45 探究学習 最終プレゼンテーション



18:00 レストランディナー



3月18日(土)

- ・AM 体育館にてバスケットボールの試合を観戦
- ・PM Sydney Zoo へ

午前中は、全員がキングススクールの体育館でバスケットボールの試合を観戦した。途中、The King's School の公式グッズ販売店で、ショッピングを楽しむ生徒もみられた。午後は当初の予定には全くなかった Sydney Zoo へのアクティビティに連れて行っていただいた。広大な敷地に様々な種類の動物(魚や爬虫類なども含む)がいて、念願のコアラの写真も撮ることができた(コアラは眠そうでしたが)。

【生徒の感想】

- ・オーストラリアの人達に話しかけるのは未だに緊張するが、今日は KING'S のバスケ観戦や TARA の子達と最後の寮生活を楽しむことができた。この研修がもうすぐ終わってしまうのは悲しいが、あと3日、オーストラリアで様々なことを吸収していきたい。
- ・午前中のバスケ観戦は、バスケのルールを知らなくても面白かった。昼ごはんはちょっと多かった。シドニー動物園では、日本では見られないオーストラリアで有名な動物たちを見ることが出来てとても楽しむことが出来ました。買いたかったお土産が高くて断念したのがすごく残念でした。夜に寮のみんなで行ったゲームもその後の会話も面白かった。初日より英語も聞き取れるようになったし、会話が弾んで楽しかった。明日には寮のみんなとお別れするのがすごく寂しい。
- ・バスケは迫力があり楽しむことができた。動物園ではオーストラリアならではの動物を見ることができてよかった。最後の寄宿舎での夜は友達を増やすことができた。明日からもうキングスとタラの生徒たちに会えないのはとても悲しいと思うくらいこの4日間をエンジョイすることができた。

9:00~11:00 体育館でバスケットボールの試合観戦



13:00～15:15 Sydney Zoo 観光



3月19日(日)

- ・バディとお別れ
- ・ブルーマウンテンズ国立公園観光
- ・カトゥンバの街散策
- ・シドニー市内ホテル周辺でのショッピング

9:00 にお世話になったバディたちとお別れした。その後、専用車でシドニー郊外の代表的な観光地ブルーマウンテンズを訪れた。観光後、ブルーマウンテンズの観光拠点の街カトゥンバの街を散策し、シドニーのような大都市とはまた違ったオーストラリアの地方都市の雰囲気を楽しむことができた。その後、シドニー市内に戻り、ホテルにチェックイン後、ホテル周辺でショッピングを楽しんだ。

[生徒感想]

・今日はたくさん買い物をする機会があったのでオーストラリアでの買い物を振り返りたい。そもそも英語には「お願いします」のような言葉がなく、レジで会計を頼むときの掛け声に戸惑った。とりあえず“Hello”と声をかけてみると、“how ya doing”と返ってきて、どう返事すれば良いかわからなかった。これは“I’m fine thank you”と返すべきなのか、それともいらっしやいませ的な何かなのか。ガイドさんによると、オーストラリア流の挨拶であり、“Good”と返すらしい。またオー징グリッシュが学べてよかった。さて、私はここでお土産を買うときに注意していることがある。それはできるだけオーストラリア産の物を買うことだ。当たり前かもしれないが、これが意外と難しい。カンガルー模様のブーメランはインドネシア産であったり、衝動買いしそうだったコアラのオルゴールも中国産であった。調べると、これは食べ物の話に限るが、商品

の何%がオーストラリア産であるのかわかるマークがある。これを目印にお土産を選んでいきたい。

- ・キングスとタラでの生活はあっという間でとても充実していた。これからも連絡を取り続けたい。ブルーマウンテンのトロッコは想像以上に怖かった。カトゥーンバにはアンティークショップがたくさんあり楽しむことができた。
- ・日本では見れない様々な造りの建物が立ち並ぶオーストラリアに街はいつ見ても飽きない。カトゥーンバの商店街の雰囲気がとても好きで写真をいつもに増してあちこちで撮ってしまった。正直まだ帰りたくないのだが、家族にお土産話をたくさんできるように残り1日もしっかり満喫したいと思う。
- ・今日はタラで過ごせる最後の日で、起きた瞬間から寂しかった。本当にタラで新しく出会った友達にはお世話になったので、とても名残惜しい。出発する際にはプレゼントを渡して写真も撮れたのは嬉しかった。ブルーマウンテンに行く途中のバスでは、どうしてもタラを去るのが嫌で、文句ばかり言っていたが、ブルーマウンテンも行ってみたら素晴らしい景色が広がっていて、来れて本当に良かったと思った。カトゥーンバではアンティークショップや Coles に行行ってたくさん買い物をして、満足のいく時間を過ごせた。新しい友達とはこれからも連絡をとりつつ、自分も日本での勉強を頑張りたいと思った。
- ・タラやキングスでの生活が終わりとても寂しいが今日の散策も街並みや文化に触れることができ充実したものになった。3種類の乗り物に乗ったりカトゥーンバでは本屋さんにも寄れてよかった。スーパーでは爆買いしたはずがまだお金が余りに余っているので明日家族や友達の思い出になるようなものや体験をしてきたい。ご飯作りのお土産をいっぱい買ったので帰国の寂しさを料理で紛らわしたいと思う。

9:00 寄宿舍のバディたちとお別れ

11:00~15:00 ブルーマウンテンズ観光、カトゥーンバの街自由散策



3月20日(月)

- ・シドニー市内班別自由行動
博物館・美術館を1箇所見学
- ・ホテルに再集合後、シドニー空港へ

8:30 にホテルロビーに集合し、12 のグループに分かれて、シドニー市内班別自由行動を行った。必ず1箇所は博物館・美術館を見学するよう指導したため、オーストラリア国立博物館やニューサウスウェールズ州立美術館などを見学したグループが多かった。なかには、フェリーに乗り、マンリーにまで足を運んだグループもあった。17:30 にホテルに再集合し、シドニー空港に向かった。空港内で軽いディナーをとり、21:35 のカンタス航空の便で帰国の途についた。

【生徒の感想】

- ・オペラハウスとシドニー現代美術館に行った後、QVB で買い物を満喫した。QVB は豪華な内装で、階段や時計も芸術的だった。朝から街を散策し、店員さんとのコミュニケーションや電車の乗り方など日常生活で欠かせないことを学ぶことができ、日本と違う部分に驚いたと同時に海外で生活してみたくなった。この1週間で沢山の出会いがあり、オーストラリアを離れることは本当に寂しかったが、日本に帰ってこの貴重な経験を振り返り、今後の生活に活かしていきたい。
- ・オーストラリア最終日、前日とは打って変わって時折小雨の降る天気だったが、オペラハウスやオーストラリア博物館などで観光を楽しんだ。中でも博物館は展示数が非常に多く、その充実さに驚いた。また街の様子や公共交通機関も全てが目新しく、面白かった。この1週間、毎日が新発見の連続で本当に楽しかった。この経験はこれからの自分の考え方や学習、日々の生活に必ずや生きてくるだろう。
- ・最終日は完全に自分達のみで行動するというので、多少の緊張はあったが特に問題なく観光することができた。公共交通機関を利用したが特に電車は日本のものよりも静かでとても快適だった。SNS で繋がった King's, Tara の生徒との交流も続けていき、今回の研修を一生のものにしていきたいと思う。



3月21日(火)

5:25 に羽田空港に到着し、簡単な解散式を行った後、現地解散となった。

【ある生徒の 3/17 の感想】

我々がオーストラリアを訪れ、そして KING's と TARA のお世話になって早くも 3 日が経過した。彼らとの交流の日々を思い返して、我々が得たものはとても膨大なものになっている。しかし、それと同時に彼らが我々から得たもの、知ったものも同様に多いのだ。そのことを考えると、自然と文化交流の尊さを自覚してくるし、また、我々がどれだけ小さいスケールの世界で生きていたかを考えると青天の霹靂を感じる他ないだろう。

さて、今日の始まりはとても可愛いものであった。KING's の Prep への訪問である。迎え入れてくれたのは、極めて柔和な表情を浮かべた男性教師と極めてはつらつとした表情を浮かべたこの国の未来たちであった。日本語のレッスンで僭越ながら教鞭を取らせてもらったのだが、私の教えた、ご機嫌いかが、がこの広大な大地の未来の一端になってくれるのならばこれ以上の幸福はないだろう。次に Prep school の案内をしてもらうわけだが、私が 1 日の中で最も大変だったと感じたイベントはこれなのかもしれない。一人の男の子を私は担当したのだが、彼は当然のごとく背が小さく、話すときは腰を折らなければならないので、終わるころにはもうからだバキバキになっていた。だが、それでも、常時手をつなごうとしてくれた彼は微笑ましいことこの上ない。余談だが、彼は烏龍茶に強い関心を示していた。

本日の目玉と言えばこの後に控えるプレゼンテーションだ。我々が集積してきたこれまでの轍を示す最大の機会であり、この探究最大の目標でもある。ここでも改めてオーストラリアという国、新たななる友達のなんと偉大なることかを思い知ることになった。特に印象的であったのが、質問の多さであった。一高で同様のプレゼンを行ったときに出てきた質問の数と同等或いはそれ以上の量をたった 40 人程度の人数で生み出したことはあまりに衝撃的だ。最終的に彼らが我々のプレゼンテーションをどのように受け取ったかは全く計り知れないわけだが、その後の彼らの反応、very excited を見れば、決して悪いものではないだろう。夕食も今までにないような経験であったといえる。全員でバスに乗り、club の方まで出向き、食卓を囲み、試合を見る。なんて贅沢で、豪勢で、華美な夕食なのだろう。私は素直に興奮してしまった。実際そのようなにぎやかな食事は私の好みとするところであり、今まで最も充実した夕食でアド街コレクションを作るとしたら、そのトップバッターを飾りうる、そのような思い出に残る食事であった。やがて日の長いサマータイム真っ只中のオーストラリアの夜が訪れる。私は昨日にシュレックを見てしまったので、今日は寄宿舎の仲間と親交を深めようと思う。何をしようか。ビリヤード、チェス、卓球、或いはラグビーの試合の観戦もなるほどなかなか面白いじゃあないか。KING's や TARA の彼らとともに、同じ屋根の下で夜を味わうのも今夜を合わせて残り 2 夜となった。それぞれがそれぞれの夜の過ごし方をすると思うが、その中でもう 1 秒たりとも無駄にはできないことを我々は忘れてはならない。

〈アンケート結果〉

(1) 自分が当初目標にしたことと、その目標への自己達成度(抜粋)

・オーストラリア英語(Aussie English)を学ぶ	100%
・異文化に触れ、さまざまなことを感じる、考える	95%
・人見知りせずに、積極的に人としゃべる	90%
・現地の高校生との交流を楽しむ	80%
・豪州の学生と交流し、自己の探究学習の集大成とする	70%
・友達をたくさんつくり、学べることは全て学ぶ	60%
・多様性を学ぶ／英語でコミュニケーションをとる	60%
・自分から話しかけて友達をつくる	50%

(2) いまもっとも印象に残っていること。それから学んだこと(抜粋)

- ・今回の旅で一番印象に残っているのは、やっぱり Tara の Boarding House でみんなと一緒に過ごしたことです。Tara で初めて出会った子どもたちはもちろん、今まであまり関わりがなかった一高の探究委員の子たちとも一緒に生活するなかで仲が深まったと思います。オーストラリアで多くの人と関わっていくなかで、その一つ一つの出会いがとても貴重なものだな、と実感しました。これからは日本でも一期一会を大切に、たくさんの人と積極的に話せるように努力しようと思います。
- ・会話する上ではスピーキング力よりリスニング力の方が大事。旅の恥はかき捨て。
- ・高校訪問中に敷地内を歩いていると、道行く人が子どもも生徒も大人も話しかけてくれたこと。日本では絶対にそんなことなかったのも、衝撃をうけたのと同時に、オーストラリアの人々の話しかけやすい人柄、会話を好む姿勢は見習いたいなと思った。また、外国から日本を見てみると、日本人は頼まれれば親切にするが、基本的に他人に興味がないと感じた。本当の優しさとは何かについて少し考える事ができた。

(3) 今回の FW を通して自分の見方・考え方が変容したと思うこと

- ・オーストラリアのシドニーの学校や街中で生活してみると、日本はまだまだ取り組むべき課題がたくさんあることに気付かされた。例えば、日本の学校教育のあり方だ。日本の学校は詰め込み教育であったり、座学ばかりであったり、活動的で創造力をかき立てるような学習はほとんどない。学校を生徒にとってより楽しくて探究心がくすぐられるような場所に変えられたらいいなと思った。
- ・コミュニケーションをとるためには、英語のスキルより話しかけに行く勇気がまず大切だと思った。
- ・オーストラリアは思ったよりも様々な国にルーツをもつ人が多かった。英語に慣れていなそうな、あるいは訛りのかなり強い店員さんも多かった。意外と伝わるんだということがわかった(ただし、全然聞き取れない)。
- ・物事に対し、より柔軟に取り組み考えられるようになった。また、オーストラリアの現地の高校生との交流を通じて受け身じゃなくて、自分から(捨て身で)行ける心構えができた。
- ・少しだけ失敗を恐れなくなった。日本のトイレで感動できそうになった。
- ・日本の英語がいかにも生きてないということがわかった。文法的に合っていても向こうには不自然な英語にとられることが多かったため、英語の会話は最も大事な英語の習得の行程なんだと考えるようになった。また、変な恥やプライドはかなぐり捨てて、周囲の目を気にしているとオーストラリアでは何もできなくなったため、以前よりも恥やプライドというものがなくなったように感じる。
- ・海外にいるのだから人間だから、根本は日本と変わらないなということ。英語能力というよりは、コミュニケーション能力が圧倒的に大切で、話しかける勇気を出せば相手も頑張って聞いてくれるし、伝えようとしてくれるので、結構楽しく話せること。意外と日本と変わらないと思った。
- ・オーストラリアの多文化な社会を見て、日本はまだまだ遅れていると感じるようになった。特に、日本の標識が何言語のっているのか、分かりやすいか、見る目が変わった。
- ・多くの人と話していくうちに、個性が本当に尊重されていることがわかり、「とにかく話したい」と思うようになった。またそのおかげで、少し何事に対しても良い面をとらえて、積極的になることができた。

(4)後輩たちに参考になること

〈持ってきてよかったもの〉

ドライヤー、サンダル、折り紙、小さいポーチ、安眠用ぬいぐるみ、折りたたみハンガー、帽子、ペットボトルの飲み物、ゴミ袋、日焼け止め、お菓子(ポッキー)

〈持って来たけど不要だったもの〉

電子辞書、教科書、学習教材、小型ポケトル、暇つぶし用の本など、タブレット、スリッパ

〈持ってくればよかったもの〉

レターセット、大袋のお菓子、リュック、多めの手さげ、中ぐらいのサイズの水筒、バックパックなど、アイマスク、サンダル、ドライヤー、メモ帳(足りなくなった)

〈お金について〉

約 50000 円用意し、約 48000 円使った。

50000 円 35000 円

40000 円 40000 円

40000 円 30000 円

35000 円 34500 円 *もう少し多くてもよかったかも。

*お金について困ったこと

- ・電子決済しかできない店もあったので、現金だけだと少し困った。
- ・割り勘がとてもしやりにくい(一斉に何か買った後のお金の集め方が難しい)
- ・なかなか硬貨がおぼえられなかった。

〈生活全般についてのアドバイス〉

- ・観光として訪ねる際には、きちんとした計画を練っておく方がよい。目覚ましをセットする。
- ・服は全部ジブロックに入れることで空気を抜いてスーツケースのスペースを確保。
- ・海外ローミングはお勧めです。ポケット Wi-Fi ではつながらないことも多々あるので。

(5)プログラムの内容に対する満足度

95%~200%

- ・当初の予定から一変し、King's の先生が途中で辞めるなど、予測不可能なトラブルが起こったにもかかわらず、今回のような素晴らしいプログラムを計画していただき、本当にありがとうございました。とても楽しかったですし、おそらくよくも悪くも一生忘れない経験になったと思います。
- ・今回の FW はたったの6日間に余るほどたくさんのイベントが詰まっていて、一瞬一瞬が学びで、良い思い出になった。本当に寄宿舎で過ごせたことは感謝してもしきれません。次の代でも同じくらいたくさんのことが経験できる FW になれば良いと思います。
- ・シドニー大学や King's でお土産を買う時間が欲しかった。スケジュールがタイトだった。